

捨てられたテレビ。壊れたタップシューズ。沈みゆく町で暮らす老人。
ていねいな「手仕事のアニメーション」で語られる、3つの人生の物語。



『つみきのいえ』に続き「ROBOT」が贈る新作アニメーション

『ゴールデンタイム』 22分50秒

テレビが辿った数奇な運命を描いた悲喜劇 **ROBOT**

舞台は高度成長期からバブル期に向かって日本がめまぐるしい発展を遂げていた1980年代の日本。ある日、長年使われてきた60年代製の家具調テレビが廃品置き場に捨てられてしまう。テレビは捨てられた事を受け入れられず廃品置き場から脱出を試みるのだが…。



第81回米国アカデミー賞®短編アニメーション賞受賞作『つみきのいえ』に続くオリジナル短編アニメーションの最新作『ゴールデンタイム』を手がけたROBOTは、『ALWAYS三日月の夕日』など数々のヒット映画を手がけている映像プロダクション。監督、脚本、キャラクターデザイン、アニメーション等のすべてを担当したのは、同社所属のアニメーション作家・稲葉卓也。本当にあったかもしれない廃品たちの物語を独特のセンスでユーモアたっぷりに描き、切ないエンターテインメントムービーに完成させた。ソウル国際カートゥーン&アニメーション映画祭「観客賞」「アジアの光賞」W受賞、文化庁メディア芸術祭・アニメーション部門「優秀賞」受賞の他、国際映画祭に多数ノミネートされ海外でも高い評価を受けている。同原作で絵本も来年出版予定。

監督・脚本・アニメーション・キャラクターデザイン：稲葉卓也

音楽：鳥田晴奈 サウンドデザイン：ONPa
プロデューサー：松本絵美 製作：ROBOT 助成：文化芸術振興費補助金（2013年/カラー）

稲葉卓也：1976年生まれ。京都精華大学卒業後、2002年より株式会社ロボットに所属。NHK BSのキャラクター「ななみちゃん」のキャラクターデザイン及びアニメーションをはじめとして独自のキャラクターセンスには定評があり、テレビ番組、CM、プロモーションビデオ、絵本など、大人から子供まで楽しめるエンターテインメント作品を多く手がけている。2010年オリジナルアニメーション「KURO」を発表。

〈ゴールデンタイム〉www.robot.co.jp/goldentime/
〈稲葉卓也〉blog.robot.co.jp/inaba/ 〈ROBOT〉www.robot.co.jp

手仕事の アニメーション

2014.1.11(土) - 26(日)

東京都写真美術館ホール www.syabi.com

当日券：一般 1,200円 / 学生・60歳以上・障害者手帳をお持ちの方 1,000円 / 中学生以下 600円 / 未就学児童 無料
自由席 / 入場各回定員入替制 / 当日12:00より各回のチケット販売を開始します 企画・製作：ROBOT 製作：白組



日本屈指のVFX技術を誇る「白組」制作のコマ撮りアニメーション

『タップ君』 23分

何も話さず、あなたの人生に寄り添う靴の物語

第二次世界大戦前後のヨーロッパのある街。靴職人のスミスの店にはいつもボロボロになった様々な靴が持ち込まれる。ある日一人のタップダンサーが靴の修理の依頼にやってくる。人間の生活を支えるために働いて来た靴たちが集うとき、それぞれに秘めていた物語を語り始める…。



『STAND BY ME ドラえもん』『もののけ島のナギ』など数々の映画をROBOTと共に制作している白組は、常に高いクオリティのCGやVFX技術に挑戦し続けている映像プロダクション。そんな白組が正統派のコマ撮りアニメーション『タップ君』を制作。マットペインティング、3DCGエフェクトなど映像の随所に最新のデジタル技術が隠されており、まさに白組オリジナルの“ハイブリットアニメーション”がここに誕生した。また、監督のアンマサコが人形から小道具に至る美術の大半までを一人で制作したという細部まで細やかに表現された世界観も見所の一つとなっており、立体造形で描かれた絵本もすでに出版されている。（『タップのゆめ』講談社刊）

監督・人形制作・美術デザイン：アンマサコ

コマ撮りアニメーター：岡田シゲル 美術・金属球体間接制作：月岡英生 音楽：ジム・オルーク サウンドデザイン：石垣哲
企画・脚本・プロデューサー：島村達雄 製作：白組 助成：文化芸術振興費補助金（2013年/カラー）

アンマサコ：1975年岐阜県生まれ。2000年多摩美術大学絵画科油絵専攻卒業後、同年株式会社白組に入社。立体造形（ミニチュアセット、人形制作）、ドローイング・イラストレーションなどで映像制作にたずさわる。2010年創作絵本「タップのゆめ」が講談社から出版。立体アニメーション短編映画「タップ君」は初監督作品。

〈アンマサコ〉www.ahnmasako.com 〈白組〉www.shirogumi.com



同時上映 第81回米国アカデミー賞®
短編アニメーション賞受賞作品
『つみきのいえ』 12分

監督・アニメーション：加藤久仁生
脚本：平田研也 音楽：近藤研二
プロデューサー：日下部雅彦/秦祐子 制作：ROBOT
（2008年/カラー）

水没した土地で暮らす老人は、水かさが増すたびに家を高く積み上げながら一人で住んでいた。そんなある日のこと、大事な落とし物を探しに海に潜ることに…。日本初の米国アカデミー賞®短編アニメーション賞に輝いた本作は、その後絵本も出版されており、現在5カ国語で翻訳出版されている。

加藤久仁生：1977年生まれ。多摩美術大学在学中からアニメーションの自主制作を始める。同大学卒業後、2001年に株式会社ロボットに入社。2009年『つみきのいえ』が世界最高峰のアヌシー国際アニメーション映画祭で最高賞グランプリ、第81回米国アカデミー賞®で短編アニメーション賞を受賞した。

トークイベント開催 1月12日(日) 13:50の回上映後 稲葉卓也監督とアンマサコ監督のトークイベント | 1月19日(日) 13:50の回上映後 稲葉卓也監督作品集上映&トークイベント

小さなお子様にもオススメ 未就学児童(無料) 親子で一緒に手仕事のアニメーションを体験。 「手仕事」の(絵本) 上映作品の児童用絵本と、絵本掲載誌を展示。

上映タイムテーブル	休館日 1月14日(火)・1月20日(月)					
11日(土)・18日(土)・25日(土)	12:20	13:50	15:20	16:50	18:10	19:30
12日(日)	12:20	13:50 (イベント付上映)	16:50	18:10	19:30	
平日・13日(月・祝)・26日(日)	12:20		13:50	15:20	16:50	
19日(日)	12:20		13:50 (イベント付上映)		16:50	

